

例会に介添え

出席して

芦屋 松本 市子

あと七回出席したら、丸十五年皆勤という出席マニアの主人が、突然に脳卒中で入院しました。昨年一月十日のことでした。幸い九カ月のリハビリテーションで十月十六日木曜日から、妻の私が同伴でなつかしのクラブへ、再出席することができました。会場が二階なので昇り降りにもどうしても介添えが必要なのです。

あれから八カ月間やむを得ない用事で二回休んだだけで毎週木曜日には喜々として、皆様にお会いする喜びのため出席させて戴いています。秋と年末の家族親睦会にも、ご一緒させていただき、生き

甲斐をひしひしと感じている様子が見えます。幸い、私の家のお隣りもそのお隣りもロータリアンの方で、ななめ向いにも同志の方がいらっしやるので、帰路は御三方のうち、どなたかに家の前まで送っていただけるのは、何といたって嬉しいことなのです。十六年前に芦屋にロータリークラブができた時のチャーターメンバーであるのと、いつも家族親睦会には皆様と親しくさせて戴いたので、例会に女性が一人加わることも何の抵抗も感ぜず、三分の二は新しいメンバーに変っていらっしやいます。暖かい会員の方々に迎えられる、主人も私もほんとうに幸福だと思っっています。その上、事務担当の春山殊子女史が十数年いつも笑顔をたたえて、海千？山千？の紳士の間を若鮎の様に忙しく泳ぎ

廻っておられ、すごく気楽にはべることができるようです。とかく、マンネリになりがちの例会も、役員が若い人達に交替し、明るく熱心にロータリー精神が守られて、ビジターの方も多く、とてもよいクラブの一つではないかと感じています。神様どうかもう一度主人が一人で例会に出席できますようにと、毎日お祈りしている次第です。

(松本島三・妻)